

# さい帯血バンク NOW

2007年11月15日発行  
日本さい帯血バンクネットワーク  
発行者：鎌田薫（会長）

〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-3 日本赤十字社東館6階  
TEL 03-5777-2429 FAX 03-5777-2417 <http://www.j-cord.gr.jp/>

## 第38号

## さい帯血移植 9月に4000例を突破

日本においてさい帯血バンクを介した非血縁者間さい帯血移植は、1997年2月に第1例が実施されてから順調に推移し、移植症例数を伸ばしています。10年半を経過した今年9月までに、速報値であります4000例を超え、累計で4040例となりました。

2007年に入ってから9月までには、毎月平均で64.5例が行われています。今年はこの9カ月間で合計581例の移植が行われました。このまま推移していくと、年内に774例程度が行われることになり、昨年の700例を大幅に上まわることになりそうです。この9月までの移植症例数の中には、2つのさい帯血を同時に同じ患者さんに移植する複数さい帯血同時移植が12例が含ま

れています。

なお、その後10月には66例のさい帯血移植が実施され、わが国における非

血縁者間さい帯血移植は2007年10月末までの累計では4106例となっています。

### さい帯血に保険適用を! 舩添大臣に要望書を提出

来年春には診療報酬の改定が実施されます。日本さい帯血バンクネットワークではこの改定を視野に入れて、10月4日付で舩添要一厚生労働大臣にあてて要望書「さい帯血バンク事業に関する医療保険の適用について」を提出しました。

さい帯血バンクの運営は採取保存に

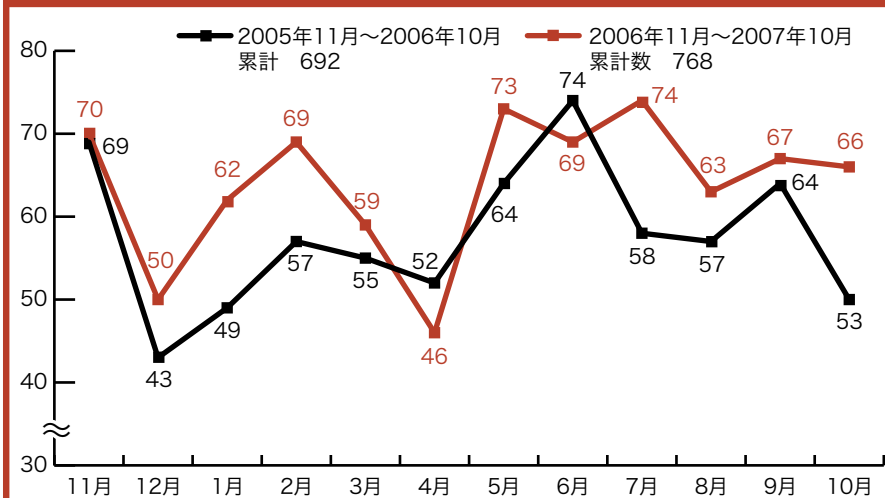
関しては国庫の補助金を受けつつ、それぞれ独立した経営母体のもとに全国11のさい帯血バンクが事業を行っています。しかしながら、補助金は事業をまかなうためには十分ではなく、すべてのさい帯血バンクは赤字経営を余儀なくされています。こうした事態を改善するためには、補助金ではなく、移植に用いるさい帯血に医療保険を適用して行くことを求めています。

今回提出した要望書はさい帯血バンクについて「事業の初期段階では国庫補助金に依存しつつ基盤整備を図らざるをえないことは明らかでしたが、今後、恒久的な事業としてわが国における造血幹細胞移植の一翼を担っていくためには、医療保険の枠組みの中で位置づけていくことが不可欠」として要望しています。

なお、10月の事業運営委員会に陪席した厚労省臓器移植対策室の原口真室長は「臓器移植対策室としても各バンクの厳しい経営状況を少しでも改善できるように支援を健康局に求めたい」と述べました。

非血縁間さい帯血移植状況(2007年10月31日現在の速報値)

移植数(累計) **4106** 公開数 **28060**





# さい帯血移植をした 高齢患者さんからの手記

さい帯血移植の新しい展開として高齢者に対する移植医療の拡大があります。日本のさい帯血移植の40%は50歳以上の患者さんに行われていて、血縁や骨髄バンクからの移植との違いを見せています。大量の放射線や抗がん剤に耐えうる年齢や体力が移植の大きな壁となっていました。最近では移植前治療を可能な限り軽減したさい帯血ミニ移植は、高齢層の患者さんにも選択しうる時代となっています。最近、82歳でさい帯血移植をされた患者さんが体験記をよせてくれました。

## 82歳8ヶ月の選択

賀集 唱

この3月で私たち夫婦は結婚50周年金婚式を迎えた。3月末の休日には孫たちも集まってくれ、盛大にお祝いしてくれた。帰り道に見た桜の花は、いつもの年より一層きれいに見えた。ところがわずか1週間後、外来に訪れた病院の医師から即刻入院を命じられてしまった。驚く私に告げられた病名は「急性骨髄性白血病」それも「M5」といってかなり重症のようだ。

入院して数日後、早速抗がん剤治療が始まった。途中経過は思いの外よかったものの、約2カ月後「抗がん剤治療は結局うまくいかなかった。残る手段は移植しかない」というのが主治

医の診断であった。

その時、私は82歳8カ月。この年齢で移植を受けるべきか。かなり厳しい、身体への負担が大きい治療になるらしい。でも移植を受けなければ、いずれは白血病の症状が内臓等いろんなところに出てきて、手に負えなくなるらしい。それも大きな不安である。この年齢で、厳しい選択を迫られた。

その選択を可能にしてくれたのが、入院先の病院が緻密かつ丹念に血液検査をはじめ各種の検査を重ね、その結果を懇切丁寧に説明してくれたことである。移植にはどんなリスクがあって、回復までにどのような経過をたど

り、その中にはどんな（つらい）症状が現れるかについて客観的かつ詳細な説明があった。

自分のことだから自分が責任を持って決断するしかないわけだが、病院から予断を排した専門的かつ客観的な詳しい説明があったことで、自分なりに十分考え決断することができた。医師と患者との信頼関係の中で最も重要なことは、この点ではないかと思う。病院の専門家としての真摯な姿勢は、大変立派だとしても感謝している。

こうして受けた移植（私の場合はさい帯血移植）であったが、移植後の経過は事前の説明通り、いやそれ以上につらいものであった。高齢のため白血球の生着が遅れ、その間に全身状態も悪化して薄氷を踏む思いであった。また「見当識障害」というらしいが、精神的にも不安定な状態に陥り、病院の方々にはご迷惑をおかけしたようだ。

病院の方々はその都度冷静かつ適切な処置を施してくださり、こうして外泊も許され退院に向けた各種準備が始まるまで回復できた。高齢の移植には数々のハードルはあろうが、医師と強固な信頼関係を築くことができれば、うまく行くのではないかと思っている。

私も10月末で83歳になる。どうやらその頃退院のようだ。金婚式という大きな節目を終え一旦はあきらめかけた生命だが、神様から与えられた残りの人生を精一杯に生きて、病院の方々に少しでも恩返しができればと思っています。



もうすぐ退院、看護師さんと奥さんと



さい帯血移植患者さんの手記②

# 生着不全、再移植

## 広部伸一



今年9月に札幌で開催された「さい帯血バンク推進全国大会」で、シンポジウムに出

席された4人のさい帯血移植体験患者さんたちは、事前に手記をお送りいただきました。前号から、その手記を順次掲載しておりますが、今回はその2回目となります。

初めまして 私は札幌在住の今年46歳になる男性です。

私は平成14年9月（41歳）に急性骨髄性白血病という診断を受け北楡病院に入院しました。正直なところ、当時は私自身が病気に対する深い理解が無く、治療を受けながら本などを読みあさり随分と勉強しました。しかし、病気を理解すればするほど「恐ろしい病気になってしまった」と思わずにはいられませんでした。でもドクター、ナースたちの手厚い看護により「化学療法」＝抗がん剤治療により、翌15年4月に退院することができました。

私も身を持って得た体験を生かしたいと思い、骨髄バンクのお手伝いをし

たいと思い（今では幽霊会員ですが）会員にも登録しました。しかし、退院から半年もたない9月に再発……目の前が真っ暗になりました。ドクターからは今後の治療法として（最初の発病の際にも言われたのですが）骨髄移植が最も有効だということで、早速、骨髄バンクに患者登録して、ドナー探しとなりました。実際、数名の適合者がいたのですが、病気の進行が早く、これ以上待てない……という状況になり、さい帯血に切り替えになりました。

そして、翌16年2月19日に無菌室に入り移植しました。しかし、移植した細胞が生着しなかったため、再び4月9日に再移植となり、約70日間を無菌室で過ごしました。

いま想えば当時、私はドクターたちに、わがままばかりいていたと思います。いまはまだ健常者とはいえないまでも、まわりの理解もあって、17年8月に元の職場で復帰を果たして働いています。

## 来年度予算 概算要求

来年度の予算について、厚生労働省から財務省へ概算要求が提出されましたが、さい帯血バンク関連につきましては、以下のようになっています。

要求額の総額は今年度（6億3002万円）並みの6億3329万円と微増になっています。さい帯血の保存予定数については今年度と同数の3400個となっています。昨年度に引き続き、採取研修事業費が要求されていますが、研

修用のDVD制作費が盛り込まれて増額となりました。また、新規に「さい帯血管理従事者等研修事業」とし、さい帯血バンク事業に携わっているボランティア等の研修費として216万円が組まれました。この他に、別途でさい帯血バンクの設備整備費がありますが、これからは財務省原案、政府予算案となり、国会審議を経て来年度予算が確定します。



すこやかに、幸せに。  
明日への夢、描きたい。

### NIPRO

人から人へ、心から心へ、医療という名のヒューマンなコミュニケーションを広げたい。真の健康を守り、幸福な社会を築くために、優れた医療器具を広くおとどけしているニプロ。

私たちニプロはさい帯血を採取保存する技術でさい帯血バンクを応援致します。

### NIPRO

ニプロ株式会社  
大阪市北区本庄西3丁目9番3号



## さい帯血バンク 道具箱

# ⑪ 保温庫・CO<sub>2</sub>インキュベータ

## 細胞のオアシス!

CO<sub>2</sub>インキュベータとは庫内の温度とCO<sub>2</sub> (二酸化炭素)の濃度を一定に保つことができる大型保温庫です。細胞培養時にのびのびと細胞に育ってもらうための工夫が凝らされたオアシスのようなものです。

### 何に使われるの?

さい帯血バンクではさい帯血を採取して保存をする前に、造血幹細胞の造血機能検査のひとつとして、コロニーアッセイ(造血幹細胞培養法)とよばれるものを行います。さい帯血中の細胞を培養することによって、形成された細胞集団を観察する方法です。コロニーアッセイでは、特殊な栄養が入った液体培地(ゲル状)にさい帯血を加え、2週間、CO<sub>2</sub>インキュベータの中で培養します。その後、顕微鏡で細胞集団を観察し、白血球系のコロニー(細胞集団)、赤血球系コロニー、その両方が混在するコロニーなどの数を計測し、さい帯血中の造血幹細胞の指標のひとつとしています。この細胞培養時に造血幹細胞が最大限の発育能力を発揮で

きるような環境を作っているのがCO<sub>2</sub>インキュベータです。

### 小さな細胞にとってのオアシスとは?

コロニーアッセイ中の造血幹細胞をあたたかく見守るCO<sub>2</sub>インキュベータは庫内温度37度、庫内の空気のCO<sub>2</sub>濃度を5%に保っています。これは、常時CO<sub>2</sub>を充填させることで培地のpHを一定に保つことができるからです。また、庫内に設置された加湿トレイに蒸留水を入れ、湿度95%程度で培地を乾燥から守り、より体内に近い環境を再現し細胞を培養しています。お肌の細胞と同じように、造血幹細胞もpHや乾燥には敏感なのです!

### 快適空間は一日にして成らず!

しかし、細胞の発育によい環境というのは雑菌やカビなども住みよい環境でもあるため、雑菌やカビの混在が起らないように対策が講じられています。



三洋電機株式会社製  
CO<sub>2</sub>インキュベータ MCO-18AIC(UV)

います。そして、棚やそれを支える支柱等はステンレス製で腐食に強い素材が選ばれており、清掃の時には全ての棚と支柱を外し、洗浄して乾熱滅菌器で滅菌しています。快適空間を守るためには、ドアの開閉を必要最小限に抑えること、定期的な水の交換や庫内の清掃が欠かせません。

私たちヒトの体内では、このように神経質にならずとも細胞の発育に十分な栄養と環境が維持されていることを考えると驚きです。

### ■善意のお気持ちに感謝します■

神奈川県	入江 修様	200,000円
長崎県	松本智子様	10,000円
埼玉県	河野雅幸様	5,000円
岩手県	遠藤律枝様	3,000円

〈寄付受け付け専用口座〉

郵便振替口座番号：00180-9-57390

口座名義：日本さい帯血バンクネット

ワーク



庫内に入る空気や炭酸ガス(CO<sub>2</sub>)は無菌フィルタを通してゴミ、塵埃などを取り除き、清浄な状態にして取り込んでいます。また、加湿トレイ内の水は定期的に紫外線を照射され殺菌された上で、自然に蒸発し拡散する仕組みになって